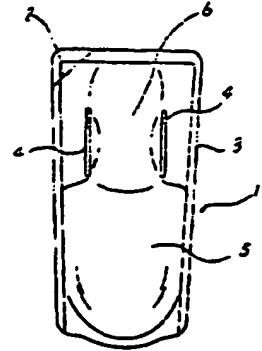


(54) LIQUID CONTAINING BAG

(11) 6-127553 (A) (43) 10.5.1994 (19) JP
(21) Appl. No. 4-278249 (22) 16.10.1992
(71) SARAYA K.K. (72) ICHIRO SARAYA
(51) Int. Cl. B65D33/02, B65B3, 16, B65D33/36

PURPOSE: To present a bag shape from being lost at the time of putting in liquid.

CONSTITUTION: When a bag 1 made of synthetic resin for containing liquid inside is stood, heat sealed parts 4, 4 comprising two front and rear sheets adhered to each other to constitute the bag 1 are provided between the center of a widthwise direction of the bag 1 when viewed from the front and both sides at slightly upper from the center of a longitudinal direction, and a distance between the heat sealed parts 4, 4 is made wider than a distance between the heat sealed parts 4, 4 and sides of the bag 1. When liquid is taken out of the bag 1, the liquid in the bag 1 moves toward a liquid outlet while its moving amount is regulated between the narrow neck parts 2, 2. The liquid at the liquid outlet always keeps a small amount while the wide heat sealed parts 4, 4 also exhibit a reinforcing effect to prevent a center of the bag 1 from bending to lose its shape due to a weight of the liquid which have moved to the liquid outlet.



(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 33/02		6916-3E		
B 6 5 B 3/18				
B 6 5 D 33/36		6916-3E		

審査請求 有 請求項の数 1 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平4-278249

(22) 出願日 平成4年(1992)10月16日

(71) 出願人 000106106

サラヤ株式会社

大阪府大阪市東住吉区湯里2丁目2番8号

(72) 発明者 更家 一郎

大阪府大阪市東住吉区湯里2丁目2番8号

サラヤ株式会社内

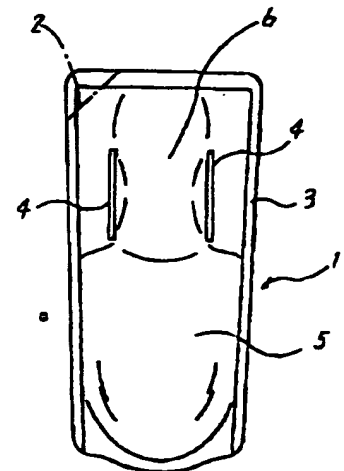
(74) 代理人 弁理士 森本 義弘

(54) 【発明の名称】 液体収納用袋

(57) 【要約】

【目的】 液体詰め替え時における袋の型崩れを防止することを目的とする。

【構成】 内部に液体が収納される合成樹脂からなる袋1を立てた状態において上下方向中央よりやや上方位置で袋1を構成する表裏2枚のシート部同志を接着させたヒートシール部4、4を正面から見た袋1の幅方向中央と両側との間に設け、ヒートシール部4、4間の間隔はヒートシール部4、4と袋1の側部との間の間隔よりも広く構成し、袋1から液体を取り出すとき、袋1内の液体は幅の狭いヒートシール部4、4間で液体の移動量が規制されながら液体取り出し口側に移動し、液体取り出し口側の液体は常に少量を保ち、ヒートシール部4、4が補強効果を発揮することも相まって液体取り出し口側に移動した液体の重量で袋1の中央が折れて型崩れが生じるのを防止するようにした。



- 1---袋
- 2---切り口部
- 3---ヒートシール部
- 4---ヒートシール部
- 5---主室
- 6---側室

【特許請求の範囲】

【請求項1】 内部に洗剤などの液体が収納される合成樹脂などからなる液体収納用袋であって、この袋を立てた状態において上下方向中央よりやや上方位置で袋を構成する表裏2枚のシート部同志を接着させたヒートシール部を正面から見た袋の幅方向中央と両側との間に設け、この2本のヒートシール部間の間隔はこのヒートシール部と袋の側部との間の間隔よりも広く構成したことを特徴とする液体収納用袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、洗剤などの液体を収納する液体収納用袋に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来から家庭などで使用される洗剤などは合成樹脂製の容器に詰められて販売されているが、例えば容器内の洗剤がなくなると合成樹脂製袋の中に入った詰め替え用洗剤を購入し、この詰め替え用洗剤を空の容器内に詰め替えていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従来から知られているこの種詰め替え用洗剤などの液体が収納された合成樹脂製袋の殆どは正面から見て矩形を呈し、液体を袋から取り出して空の容器内に詰め替えるとき、袋の上端の1つの角部を鉋などでカットして液体取り出し口を形成した後、袋を手持って作業を行っていた。

【0004】 このような詰め替え時に前記カットにより形成された液体取り出し口を下に向けるために袋の下端側を手持って袋を傾けると袋内の液体が下に向く側に移動して、その移動した液体の重量で袋の中央が折れるという型崩れが生じ、その結果液体取り出し口の位置が変わり、液体が容器の外にこぼれたりして詰め替え作業がスムーズに行えないという問題があった。

【0005】 本発明はこのような課題を解決するもので、液体詰め替え時における袋の型崩れを防止することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記問題を解決するために本発明は、内部に洗剤などの液体が収納される合成樹脂などからなる液体収納用袋であって、この袋を立てた状態において上下方向中央よりやや上方位置で袋を構成する表裏2枚のシート部同志を接着させたヒートシール部を正面から見た袋の幅方向中央と両側との間に設け、この2本のヒートシール部間の間隔はこのヒートシール部と袋の側部との間の間隔よりも広く構成したものである。

【0007】

【作用】 上記構成により、袋から液体を取り出すとき、袋内の液体は幅の狭いヒートシール部間で液体の移動量が規制されながら液体取り出し口側に移動し、液体取り

出し口側の液体は常に少量を保ち、前記ヒートシール部が補強効果を発揮することも相まって液体取り出し口側に移動した液体の重量で袋の中央が折れて型崩れが生じることがなく、液体が容器の外にこぼれたりすることなく詰め替え作業をスムーズに行なうことができる。

【0008】

【実施例】 以下、本発明の実施例について、図面に基づいて説明する。まず、図1～図3に示す第1実施例について説明すると、1は内部に詰め替え用洗剤などの液体が収納された所謂スタンドバックと称する自立型の合成樹脂製袋で、この袋1は立てた状態において正面から見て矩形を呈し、その周囲はヒートシールされ、上端の1つの角部には鉋などでカットして液体取り出し口を形成するための切り口部2が形成されている。3は袋1の周囲のヒートシール部である。

【0009】 4は前記袋1を立てた状態において上下方向中央よりやや上方位置で袋1を構成する表裏2枚のシート部同志を接着させるヒートシール部で、上下方向に向いて直線状に2本平行に設けられている。袋1は正面から見て矩形を呈し、前記ヒートシール部4は正面から見た袋1の幅方向中央と両側のヒートシール部3との間に設けられている。なお、前記ヒートシール部4、4間

の間隔はヒートシール部4とヒートシール部3との間の間隔よりも広くなっている。

【0010】 上記構成において、袋1内の液体を取り出すときは前記切り口部2を鉋などでカットして液体取り出し口を形成した状態で図3に示すように液体取り出し口が下に向くように袋1を傾け、袋1内の液体を取り出すのであるが、液体取り出し口が上に向いた状態でヒートシール部4、4よりも下の主室5に入っていた液体はヒートシール部4、4間を通過して液体取り出し口側の副室6に移動し、液体取り出し口から取り出される。このとき副室6よりも主室5の方が大きく、しかも液体の移動通路がヒートシール部4、4で狭められているため、主室5内の液体は一度に副室6に移動するのではなく、幅の狭いヒートシール部4、4間で液体の移動量が規制され、副室6に移動する。この結果、液体取り出し口側の副室6内の液体は常に少量を保ち、前記ヒートシール部4、4が補強効果を発揮することも相まって副室6に移動した液体の重量で袋1の中央が折れて型崩れが生じることがなく、液体が移し替え用容器7の外にこぼれたりすることなく詰め替え作業をスムーズに行なうことができる。

【0011】 なお、上記第1実施例ではヒートシール部4は直線状に2本平行に設けられているが、図4に示す第2実施例のように互いに反対方向に向く（状のヒートシール部4を設けるようにしても良い。この場合、2本のヒートシール部4は（状の折曲点間で最も近づいている。

【0012】 ところで前記袋1は下端部が膨らんだ所

3

スタンドバック状のものに限定されるものではなく、4辺の縁が線状となって厚みを持たない形状のものでも良い。また、前記袋1は内面に合成樹脂フィルムが装着されたアルミ箔で作られたものでも良い。

【0013】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、袋から液体を取り出すとき、袋内の液体は幅の狭いヒートシール部間で液体の移動量が規制されながら液体取り出し口側に移動し、液体取り出し口側の液体は常に少量を保ち、前記ヒートシール部が補強効果を発揮することも相まって液体取り出し口側に移動した液体の重量で袋の中央が折れて型崩れが生じることがなく、液体が容器の外にこぼれたりすることなく詰め替え作業をスムーズに行なうことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例における液体収納用袋の正面図である。

【図2】同断面図である。

【図3】同液体取り出し時の状態を示す斜視図である。

【図4】本発明の第2実施例における液体収納用袋の正面図である。

【符号の説明】

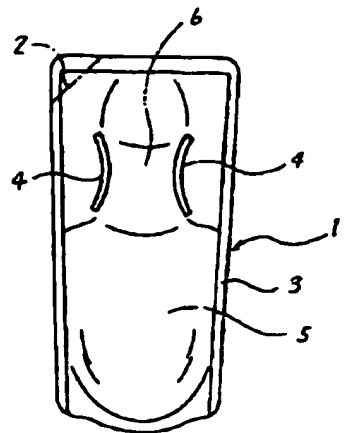
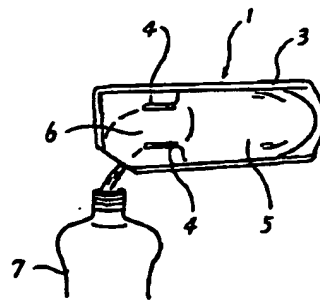
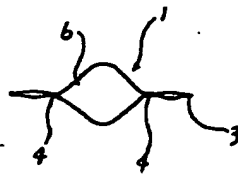
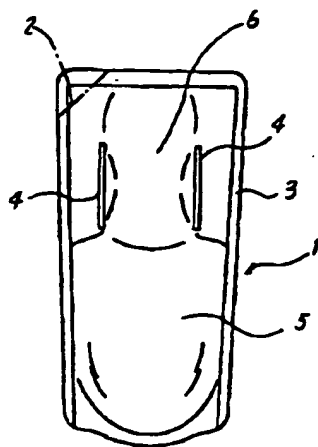
- | | |
|---|---------|
| 1 | 袋 |
| 2 | 切り口部 |
| 3 | ヒートシール部 |
| 4 | ヒートシール部 |
| 5 | 主室 |
| 6 | 副室 |

【図1】

【図2】

【図3】

【図4】



- 1---袋
2---切り口部
3---ヒートシール部
4---ヒートシール部
5---主室
6---副室

- 4---ヒートシール部